

日本財団ホスピスナースネットワーク News Letter

2010.6 vol. 12

memento
mori

「memento mori」=ラテン語で「死を想え」という意味



<CONTENTS>

- 第9回日本財団ホスピスナース研修会開催報告
- 笹川医学医療研究財団からのお知らせ
- 私がホスピスナースです！⑦
- 日本財団からのお知らせ 他

《日本財団ホスピスナースネットワークとは》

1998年度より日本財団が(社)日本看護協会、(財)笹川医学医療研究財団など多数の機関と協力し実施している「認定看護師教育(専門)課程(①緩和ケア、②訪問看護)」と「ナースのためのホスピス緩和ケア研修(旧:ホスピス緩和ケアナース養成研修)」の修了者(日本財団ホスピスナース)を対象としたネットワークです。

第9回日本財団ホスピスナーズ研修会 開催報告

1998年より日本財団が(社)日本看護協会、(財)笹川医学医療研究財団など多数の機関と協力し、実施しているホスピス緩和ケアに携わる看護師養成事業は、2009年度末で養成者数が2,425名になりました。

日本財団の支援を受けホスピス緩和ケアを学んだナース「日本財団ホスピスナーズ」が年に一度顔を合わせる貴重な機会となっている「日本財団ホスピスナーズ研修会」は9回目を迎え、全国から110名の日本財団ホスピスナーズが参加し多数の方のご協力により盛会のうちに終了いたしました。

前回の研修会から「日本財団ホスピスナーズによる集いの場づくり」を目的として、「日本財団ホスピスナーズ」の代表を選出し企画推進役を担うプログラム委員により「提供される研修会」から「創る研修会」に変わりました。

第9回研修会は、「スピリチュアルケア」をテーマにプログラム委員リーダーの馬場玲子さん(筑波大学附属病院 看護師長)によるオリエンテーションに始まり、1つの講演と2つのグループワーク、代表メンバー3名の実践報告の研修プログラムで開催しました。

開催日：2010年3月4日(木)～5日(金)
場 所：日本財団ビル 2F 会議室
参加者：日本財団ホスピスナーズ 110名

<1日目>

■開会あいさつ：笹川陽平(日本財団会長)



『人と人の絆が薄くなる中で患者を心豊かに送りだそうという同じ思いを持った者同士で顔の見える交流をしてください。また、日々の活動の中で、自分の経験外の対応に悩まれた時にはこのネットワークを活用し、

わが国の終末期医療を更に充実させてください。』とネットワークへの想いを語られました。

■セッション1：グループワーク「スピリチュアルケアについて思うこと」 担当：小野芳子さん

(山口赤十字病院緩和ケア病棟 看護師長)

グループワークでは、勤務形態(緩和ケア病棟、独立型ホスピス、チーム、一般病棟、在宅)、職歴、地域の違うメンバーで構成し、数グループに分かれ、講演を聞く前のアイスブレイキングとしてそれぞれが日々の経験から「スピリチュアルケア」についての思いを語り合い、共有しました。



担当の小野さんは『皆様のお話からわかるようにスピリチュアルペインについては、様々な捉え方があると思いますが、全人的苦痛ということを理解する事がスピリチュアルケアに繋

がるのではないかと感じました。具現化する事は難しいと思いますが、沢山の方のお話や文献に触れ、それぞれがスッと心に入る意味づけを探してみるのはいかがでしょう』とまとめました。

■セッション2：講演「ケアとしてのスピリチュアリティ」

講師：井上 ウィマラ

(高野山大学 スピリチュアルケア学科 准教授)



私は、日本やビルマで学び修行した仏教瞑想をカナダ・イギリス・アメリカなどの西洋社会で教える異文化体験を通して、瞑想の本質をどのように臨床

現場に応用してゆくかについて多くのことを体験的に学ばせていただきました。その仏教瞑想は、「マインドフルネス(注意深く心を込めて生きること)」という呼び名で、心理療法を中心としてホスピス運動や子育て支援、DV予防や平和活動などといった多様な分野で実践的に応用されています。今日はそうした私の体験を踏まえて、「ケアとしてのスピリチュアリティ」というテーマでお話させていただきます。

医療におけるスピリチュアリティの重要性に注目されるようになった背景にはホスピス運動がありました。ホスピスの語源はラテン語のホスペスです。これは不思議な言葉で、ホストとゲストという相反する二つの意味を併せ持ちます。迎えることと迎えられること、与えることと受け取ることが平等に循環する流れの中でケアする人にもケアされる人にもそれぞれにいのちの喜びが感じられるようなコミュニケーションやケアのあり方がホスピスの原理なのです。こうしたホスピス運動の原型は原始キリスト教時代に起源を持ち、中世には巡礼者の宿として機能していたようです。疲れ病んだ旅人の中に神を見出し、彼らに仕える事を通して神の愛を実践しようとしたのではないかと思います。

こうしたキリスト教の伝統を引き継いで、シシリー・ソングスが1967年にセントクリストファーズホスピスを創始したことが現代的ホスピス運動の転換点となりました。看護師、MSWそして医師の資格と経歴を持つ彼女は、①モルヒネによる効果的な疼痛緩和、②患者のQOLを向上させるための全人的ケアを提供するチームアプローチ、③研究と教育が同時に実践されるための場という3つの柱を軸として新しいホスピスを作ろうとしました。スピリチュアリティとスピリチュアルケアは、第2の柱の全人的ケアの一端を担う重要な要素です。

医療では、まずは患者の身体的な痛みに対応しなければならないのですが、身体的痛みが緩和されたときにあらためて浮かび上がってくる心の深い悩みや痛みがあります。「何で生きているんだろう?」「どうしてこんな病気になって苦しむのんだろう?」「死んだらどこに行くのんだろう?」などとい

った存在の深みから湧き上がってくる痛みをスピリチュアルペインと呼びます。そうした深い苦痛に寄り添うためには、これまでの宗教や医療や心理療法などの枠を超えて患者やその家族のために協力し合うような取り組みが求められているのです。健康の定義に、身体的、社会的、心理的に加えてスピリチュアルな良好さというものを考慮する流れが生まれてきたのもそのためです。



こうした流れの背景には、産業革命以来社会構造が徐々に変化して、特に第二次世界大戦以降になって家庭のあり方や人間同士のつながり方が急激に変化してきたことがあります。地縁や血縁によるつながり方から会社や学校などの機能的目的によるつながり方に移行する中で、生活の場が地域の家庭から会社や学校や病院などの施設へとシフトしてきました。家で生れ家で死んでいたものが、病院という施設の中で集約的に管理されるようになって来たのです。生と死の現場が地域に織り込まれた家庭から病院の医療共同体へとその場を変えたとき、かつては神官や僧侶やシャーマンやあるいは取り上げ婆さんなどが担っていたどうにもできない死の見守り役を医療共同体がどのようにして受け継ぎ再生してゆくことができるのか？ 医療とスピリチュアリティの間には、そうした歴史性が隠れているのです。

このテーマに最初の大きな一石を投じたのが、キューブラー・ロスの『死ぬ瞬間』でした。この本は死の受容への5段階を暗記すればよいという本ではなく、現代社会における医療共同体が抱える問題を死（への不安）と向かい合うという切り口から照らし出した彼女の心意気を行間から感じ取るように学ぶべき教科書ではないかと思えます。否認、怒り、取り引き、抑うつ、受容という心的なプロセスは、大切なものを失う悲嘆の過程でもあります。死の受容への道のりは、自分という概念や理想を喪失する予期悲嘆の道のりだからです。それは直線的に進むものでも管理すべきものでもなく、その人なりの歩みを尊重されるべき螺旋的な道のりです。

私はスピリチュアルケアについて、「生老病死という人生の危機に遭遇している人に、共感的に寄り添いながら、共にいのちの光を輝かせられるような道を探し出すための支援」だと思っています。患者だけが楽になればよいのではなく、ケアする側も共にいのちの光が輝くということが大切です。その“共”にといいるところにホスピスの原理があります。

スピリチュアルなケアは、マニュアル化できるスキルではなく、そのスキルをどのように使うかというメタスキルとしてなされます。どんな専門職でも、修羅場や行き詰まりに遭遇することは避けられません。そのときに、どのように創意工夫しながらその困難を打開するかというその人の姿勢や構え、生き方や存在感の中にこそスピリチュアルな働きが現れてくるのです。

危機的状況においてどのように行動するかには、その人がどのように生まれ育ってきたかが大きく影響します。スピリチュアルケアの現場で出会う問題の多くも、その人の生まれ育ってきた家庭や家系の問題に絡んでいるものです。だからこそ、どのような援助者も自らの生育歴についてふりかえりを深めてゆくことが必要になります。自分自身に向かい合える程度にしか、患者さんにも向かい合えないものです。それ以上無理しようとするから燃え尽きるのです。

自分を大切にすることができる程度にしか、他人を大切にすることはできないのです。

ケアにおけるスピリチュアリティには、ケアを通して自身の見たくない部分や闇の部分に向かい合う作業を通して自然に成熟してゆく所があります。愛憎や善悪をはじめとする人生のあらゆるアンビバレントな要素を抱きかかえることのできる器の大きさにしたがって、私たちのスピリチュアリティも輝きだします。いろいろな自分をひっくめて好きになれることが大切です。その自尊心があってはじめてセルフ・エフィカシー（自己効力感）も働き出すのです。

そうした魂の器を育てるためには、職場で愚痴をこぼしあえるような相互扶助的な人間関係を育むことも大切です。きれいごとだけではない、ホンネの出会いができる場です。健全なる愚痴は、お互いを知り合い、助け合い、守りあうための潤滑油になります。聖人ぶらない、一人で抱え込まないで生きてゆくための智慧です。

人のホンネは、言葉ではなく、仕草や身ぶり、口調、まなざしなどの非言語的な要素によって媒介されます。患者ともチームメイトとも、目で触れ、声で触れ、手で触れるという意識を持つのがよいでしょう。私たちのいのちは、そうした多層的で微細なふれあいの中で響きあっています。その響き合いの中で互いの生まれ育った家系の雰囲気がかたまっています。生まれてから死ぬまで、人はケアし合うことなしには生きてゆけません。人間として生きることはケアし合うことに他ならないのです。そうしてケアし合ういのちの息遣いとして、スピリチュアリティは一瞬も休まず私たちを支え続けてくれているのです。



最期に私が作ったスピリチュアルケアのイメージソング「いのち輝け」を紹介したいと思います。

いのち輝け光の中で、喜びと悲しみと繰り返す景色。
いのち輝け喜びの中で、湧き上がる力に溶かされてゆけ。
広がれ笑顔、つながれ絆。繰り返すいのちの波、さあもう一度乗りこなして。
いのち輝け悲しみの中でも、涙に現れて開ける世界があるよ。
見守られて、抱かれて、許されて。繰り返すいのちの波、さあもう一度勇気出して。
いのち輝け光の中で、喜びと悲しみと繰り返す景色

<2日目>

■セッション3：実践報告・グループワーク「スピリチュアルケアの実践とセルフマネジメント」

担当：松本俊子さん（土浦協同病院 看護師長）

一般病棟（緩和ケアチーム）、緩和ケア病棟（独立型ホスピス）、在宅を代表した3名のメンバーによる実践報告を受けて1日目で語り合い共有した「スピリチュアルケア」についてもう一段深く考え自己を見つめる機会としました。

①一般病棟（チーム）：

後藤 たみ 神戸市立医療センター西市民病院



一般病棟で数十年来ホスピス緩和ケアに従事し、現在は生命の誕生から死までを見届ける産婦人科病棟勤務の後藤さんは、2つの事例から『少しの時間でも関わりを持つ意識、普段の看護技術を丁寧に行うこと、信頼関係の中で患者さんやご家族がお互いの気持ちを正直に受け止められる環境をつくること、1人じゃないチーム医療を分ち合うこと』など実際に行ったケアについて発表いただき、「私のスピリチュアリティやケアに影響を与えた二つ出来事」として看護学校で実習中のあるがん患者さんとの出会いと阪神淡路大震災の体験から改めて感じた命の尊さ・儚さについて語っていただきました。最後に後藤さんが大切にしていること、伝えたいことの思いを込めてメッセージをいただきました。

『誰にでも「スピリチュアルペイン」はある。「死」も訪れる。生命には、長い・短いという時間の長さも大切だが、それ以上にどう自分らしく輝いて生きたかが大切、人生の主人公は自分だから。「今を大切生きよう」頑張り過ぎずあきらめもしないで。』

「頑張り過ぎずあきらめもしない」という言葉は、一年前の研修会最後の日に書き留めた自分へのメッセージだそうです。

②緩和ケア病棟（独立型ホスピス）：

木野村 悦子 大分ゆふいみ病院



大分市内の自然あふれる環境の独立型ホスピスで勤務している木野村さんは、認定看護師になって3年が経過し、今回、自分の経験を一つ一つ振り返りながら感じた認定看護師としての苦悩と達成感を語っていただきました。木野村さんは、スピリチュアリティを覚醒しバーンアウト寸前であった自分に気づかせ救ってくれた実習先のチャプレンとの出会いから『素直に心と向き合うこと、自分で自分を許すことの大切さ、自分が理解されていると感じる環境の必要性、自分自身が周りの人からスピリチュアルケアを受けていること』のきづきを述べました。『尊敬する先輩ナースからいただいた「ホスピスは単純な日常生活を丁寧に生きる場所」というメッセージを心に置いてお互いを認め合える関係性を築きながら今できることを丁寧に取組み認定看護師としての役割を務めていきたいです。』と抱負を述べ、『私のスピリチュアルケアについては未だ手探り。自己研磨をつづけ、スタッフとも丁寧に関わり合いながらこれから自分自身の「スピリチュアルケア」を確立したいです。』と素直な感想をいただきました。

③在宅：

橋爪 睦 諏訪赤十字病院在宅ホスピスレインボー



長野県の諏訪湖の湖畔にある病院の在宅緩和ケア専門部署で在宅療養を希望するがん患者と家族に関わっている橋爪さんは、在宅ケアを通して『自宅や家族のもとに戻ること、そのこと自体がスピリチュアルケアにつながる』と感じていますが「スピリチュアルケ

ア』について今でもまだ戸惑うことが多く、ある患者さんの「死ぬ人間にはもう用はないのかい・・・」の一言がまだ解決できない自分がいます。また、在宅は生活が中心であり、死と向かい合う環境でもあることからスピリチュアルペインが察知されやすい、家族は、患者の“存在の枠組”でもあり、主にケアを担っている立場でもあるから家族もまた心のケアを必要としています。』と在宅で関わるスピリチュアルケアの視点についても述べました。

また認定看護師として、がん相談支援センター相談員と緩和ケアチームを兼務する中で、スタッフと「1人で抱え込まず、皆で話し考えよう」を合言葉に笑顔のある環境づくりとスタッフの人としての幅を広げる事を望みながら日々奮闘している現状を報告し、最後に『在宅で出会った笑顔は、私達にとって様々な壁を乗り越えていく大きな力となり、患者さん、ご家族は沢山の事を教えてくれました。』と在宅ケアならではの素敵なメッセージをいただきました。

☆「日本財団ホスピスナース研修会」参加特典☆

他の研修会にはないこの研修会ならではの特典が満載です！！今回の内容をご紹介します。

☆特典① 研修会場までの片道分交通費を補助いたします。

☆特典② 懇親会でスペシャルゲストと美味しい食事で楽しい時間を過ごせます。

和洋中のスペシャルビュッフェ☆
チーズの盛合せが最高です！



ゲストや同志とグラスを傾けつつ



「日本財団ホスピスナース」のためにご参集いただいた
スペシャルゲストのご紹介



日原重明先生



アルフォンス・幸田正孝先生
デーケン先生



行天良雄先生



井上ウィマラ先生



洪 愛子先生



足利幸乃先生



斉藤美恵先生

ゲストの皆様、ご多忙の中ご出席いただきありがとうございました。

☆特典③ 研修終了後の昼食会では、スワンバーカリーのスペシャルパンを堪能できます。

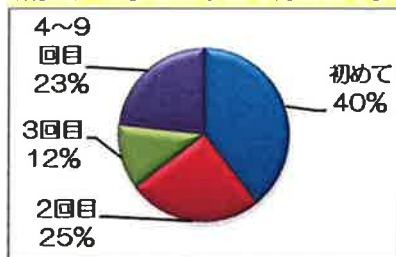
☆特典④ 研修会の思い出を記念写真としてお届けします。

約 600 個のオリジナルパンやフレッシュフルーツ☆

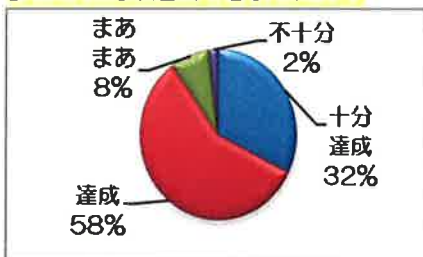


■研修会参加者アンケート結果のご報告（参加者 110 名中 99 名の方にご協力いただきました）

研修会への参加は今回で何回目ですか？



参加の目的は達成できましたか？



■主な参加目的

- ①仲間作り
- ②セルフケア（振り返り・分ち合い・ストレス解消）
- ③新たな学び

約 90%の参加者が目的を達成し、満足感のある研修会となったようです！

■研修会に参加した「日本財団ホスピスナーズ」の一部の方より研修会の感想や全国の仲間へメッセージをいただきました！！



大友絵利香（奈良県）
ここに参加すると「私にでもできる事はまだまだある！」という気持ちになります。



千葉恵子（千葉県）
今回も仲間づくりの大切さ痛感しました。



福田富滋余（長崎県）
疲れすぎないように！ネットワークを広げ日々の活動につなげていきましょう。



藤田千尋（岡山県）
全国の皆の存在を励みに一日一日を頑張りましょう！



杉下 薫（奈良県）
自分のことを大切にしないと、人のことも大切にできないことを改めて実感しました。



富田英津子（東京都）
全国に仲間がいます。いつでも声をかけ合い一緒に頑張りましょう！



水野敏子（愛知県）
安心して話せる場は、私達にとって大事ですね。皆さん、深刻にならないで・・・



秋庭聖子（青森県）
それぞれ現場で悩んでいるでしょう。ここに来て語り合っひとりじゃないと感じますよ。みんな出ておいで～



谷口里枝（岡山県）
癒されました！！全国のみなさん、ここで語り合い、思いを共有し合い、ストレス解消しましょう。



平野和恵（神奈川県）
いつでも、どこでも、一緒に悩んだり、共有したり、楽しんだり、していきましょう！



兼行栄子（兵庫県）
病院のケアの充実も大事ですが、やっぱり地域のことも考えるナースが増えてくれると嬉しいです。



下岡三恵（東京都）
活動場所は違ってもお互いにもっと交流し、連携して働けるような関係をつくって行けたらいいですね。



赤星文恵（熊本県）
もっと認知症の人を理解して、温かく見守って欲しいと思います。



西岡麻衣（愛知県）
教育からフォローアップまでサポートがあり心強いです。本当にありがとう競艇！！

皆さん、次回の研修会でまたお会いしましょう！

■今回の研修会運営にご尽力いただいた「プログラム委員」「サブプログラム委員」をご紹介します！

プログラム委員（企画運営全般にご協力いただきました。）



馬場玲子さん
筑波大学附属病院 勤務
緩和ケア認定看護師
2000 年度：
日本看護協会看護研修学校
*2009 年度プログラム委員リーダー



小野芳子さん
山口赤十字病院 勤務
緩和ケア認定看護師
1998 年度：緩和ケアナース養成研修
神戸研修センター
2002 年度：
日本看護協会看護研修学校
*2010 年度プログラム委員リーダー

倉持さんと松本さんは、今回の研修会で任期満了となりました。初代委員としての思いや今後についてコメントをいただきました。



倉持雅代さん
浅草医師会立
訪問看護ステーション 勤務
緩和ケア認定看護師
1999 年度：
日本看護協会看護研修学校



松本俊子さん
土浦協同病院 勤務
緩和ケア認定看護師
1999 年度：
日本看護協会看護研修学校
*2008 年度プログラム委員リーダー

私は、9 回参加しております。その理由は、この会に来て自分自身が凄くホッとできる場であり、自分自身が日頃職場の中で思い描いていても、スタッフと共有できない事が職場環境や地域、年代を超えて共通した思いを持つ者同士分ち合える事が明日への活力になることです。今回で委員を退きますが来年、再来年も来るぞ！と改めて思っています。1 人でも多くの方に参加していただきお会いできる事を楽しみにしています！

私は、皆勤賞です。初代プログラム委員として2年間を務め第8・9回に関わりました。第1回～7回の研修会に参加していた頃は、提供されるプログラムを楽しむ研修会と思い込んでいました。「日本財団ホスピスナースが自立するプログラムを共に創りましょう」と日本財団からの助言を受け何も分からないまま委員を引き受け不安な船出となった訳ですが、企画や運営に携わり新しいきづきが沢山ありましたし、思いのほか参加の皆さんから「良かったよ」と言っていただけで凄く良かったとホッとしました。次回からは、一参加者として皆さんと一緒に研修会を楽しみたいと思います！

サブプログラム委員（プログラム委員就任の準備期間として当日運営にご協力いただきました。）



橋爪 睦さん
諏訪赤十字病院
在宅ホスピスレインボー 勤務
緩和ケア認定看護師
1998 年度：
日本看護協会看護研修学校



後藤たみさん
神戸市立医療センター
西市民病院 勤務
緩和ケア認定看護師
2003 年度：
日本看護協会看護研修学校

(財) 笹川医学医療研究財団よりお知らせ

DVD無料レンタルのご案内

メント・モリセミナー等のDVDを制作し医療・福祉の現場で働く方々にご活用頂けるよう無料レンタル（但し、発送・返却送料は利用者負担）をしております。ホームページにて好評受付中です！

2011 年度研究助成のご案内

2011 年度研究助成事業は今年9月1日より財団ホームページにてご案内予定です。詳しくは、9月1日、財団ホームページをご覧ください。皆様のご応募をお待ちしております！
<http://www.sasakawa-igaku.or.jp/>

研修名変更のお知らせ

平成14年より（社）日本看護協会と共催で実施している6週間のホスピス緩和ケアに携わるナース養成プログラムは、今年度より新たな研修名とカリキュラムでスタートしました！

「緩和ケアナース養成研修」



「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」

研修カリキュラムは緩和ケアの専門的看護ケアではなくホスピスマインドを核とした看護ケアを学べます。

「第10回日本財団ホスピスナース記念研修会」のご案内
今年度の「日本財団ホスピスナース研修会」を下記の日程で開催予定です。今回は、節目である10回目を迎えます。記念すべき研修会となるよう豪華プログラムを企画し皆様のご参加をお待ちしております！
詳しくは、12月頃お手紙をお送りいたします。

「第10回 日本財団ホスピスナース記念研修会」
日時：2011年3月3日（木）～3月4日（金）（予定）
場所：日本財団ビル

私がホスピスナースです! ⑦

全国のホスピスナースをリレー形式でご紹介するコーナーです。
第7回目は、緩和ケア認定看護師として活躍する大野礼子さんに登場して頂きました。

大野礼子（おおの れいこ）さん
藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム 緩和ケア病棟
緩和ケア認定看護師教育専門課程（2006年度・北海道医療大学認定看護師研修センター）



Q.現在の仕事内容を教えてください

毎日、緩和ケア病棟でがん患者さんに対し症状コントロールや、日常生活を少しでもその人らしく過ごせるよう生活の工夫などを行なっています。また家族に対して入院中の家族ケアを行なうと共に、大切な人を亡くした悲しみが少しでも緩和できるように遺族ケアを行っています。またスタッフに対し緩和ケアの勉強会をはじめ月1回のカンサーボードの開催や、年間4回、三重県内の医療者に対して緩和ケア研究会やセミナーの企画、運営を行ない緩和医療の質の向上に努めています。

Q.どのような時に、ホスピスナースのやりがいや困難を感じますか？

症状コントロールが良好となり患者さんの希望が叶い患者さんやご家族が喜ばれた時にやりがいを感じます。
また、緩和ケアの知識が医療者に理解してもらっていないと感じたときに困難さを感じます。

Q.何がきっかけで、ホスピスナースを志しましたか？
一緒に勤務していた緩和ケア認定看護師の知識を自分も習得したいと思ったからです。

Q.休日の過ごし方は？
旅行やショッピングに出かけること。

Q.好きな映画、好きな本は？
映画はアクション映画、好きな作家は斉藤茂太。

Q.大野さんの、次の目標は何ですか？
緩和ケア認定看護師を増やすことです。

Q.その他、ご自由に全国のホスピスナース達へのメッセージをお願いします

患者さんとご家族と関わるなかで、その方たちが大切にしているものを私達も大切にするという姿勢が大事だと思い日々、看護を行なっています。患者さん、ご家族と一緒に考える看護師であり続けたいと思います。



お忙しいところご協力いただきありがとうございました。

【投稿記事を募集しています】
日頃感じている思いや活動の紹介、セミナー開催・Web サイト開設のご案内など、ホスピスナースの皆様には是非伝えたい内容であれば何でも結構です。本文（写真）・ご連絡先を下記までお送り下さい。
2011年4月28日が〆切です。

日本財団よりお知らせ

千葉大学寄附講座の開催

2007年より千葉大学教育課程においてホスピスをテーマにした日本財団寄附講義は2009年度をもって終了しました。3年間で計約1200名の学生が受講し、毎回教室は満席で、各分野からのスペシャリストによる講義に学生たちは真剣に聞き入っていました。

2010年度より、千葉大学看護学部・大学院生を対象とした日本財団助成講座「領域横断的エンド・オブ・ライフケア看護学」がスタートします。

日本財団ホスピスナースに新たな仲間が加わります！

日本財団の支援を受け全国の教育機関でホスピス緩和ケアを学んだナースがついに2,400人を突破しました。

2010年度より新たに、「香川大学」、「静岡県立静岡がんセンター」に対して支援することが決定し、今年度は、全国12ヶ所の教育機関から「日本財団ホスピスナース」が誕生します！

《支援実績 1998年～2009年》＊順不同

(社)日本看護協会、(社)神奈川県看護協会、埼玉県立大学、北海道医療大学、(財)日本訪問看護振興財団、広島大学、白鳳女子短期大学、久留米大学、聖路加看護大学、大分県立看護科学大学、(社)兵庫県看護協会

日本財団はホスピスナースの活動を積極的に支援します！

日本財団は、2010年度は下記の「日本財団ホスピスナース」の活動を支援しています。「地域の在宅ケア向上のために何かしたい！」「地域のホスピスナースのネットワークを構築したい！」など「自分たちで何かやってみたい！」という方々、是非日本財団にご相談ください！

東海ホスピス・緩和ケアナース交流会

事業名：東海北陸地域におけるホスピス緩和ケアネットワークの構築

内容：東海・北陸地域在住のホスピス緩和ケアに従事するナースの交流やネットワーク構築を図る

助成金額：800,000円

申請者：水野敏子さん（愛知県）

緩和ケア認定看護師連絡協議会

事業名：緩和ケア認定看護師フォローアップ研修

内容：緩和ケア認定看護師教育課程を卒業したナースを対象とした研修会の開催

助成金額：770,000円

申請者：谷川 あづささん（大阪府）

なごみの和

事業名：地域における緩和ケア・訪問看護啓発セミナーの開催

内容：地域の住民や福祉関係者への在宅ホスピス（特にホスピス緩和ケアや訪問看護）の普及・啓発

助成金額：320,000円

申請者：平野 和恵さん（神奈川県）

(特) 愛逢

事業名：在宅ホスピスに関する講演会の開催

内容：一般市民を対象とした「生と死を考える」「在宅ホスピス」をテーマとした講演会の開催

助成金額：1,000,000円

申請者：兼行 栄子さん（兵庫県）

支援に対するお問い合わせ先：日本財団 ホスピスネットワーク事務局

TEL: 03-6229-5390 E-Mail: hospicenurse@tnfb.jp

発行：(財)笹川医学医療研究財団 編集：(財)笹川医学医療研究財団・日本財団
表紙写真提供：後藤たみ（神戸市立医療センター西市民病院）2009年アメリカ視察旅行にて
【お問い合わせ先】

日本財団ホスピスナースネットワーク事務局

日本財団公益・ボランティア支援グループ福祉チーム 山本多恵子・溝垣春奈

(財)笹川医学医療研究財団 新垣西香

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル5階 笹川医学医療研究財団内

TEL: 03-6229-5390 FAX: 03-6229-5395 E-mail: hospicenurse@tnfb.jp

笹川医学医療研究財団 URL: <http://www.sasakawa-igaku.or.jp/>

ホスピスナースブログ URL: <http://blog.canpan.info/hospicenurse/>

